

第4回 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会 議事要旨

開催日時	2020年11月6日(金) 18:32~20:50	
開催場所	町田市役所市庁舎 10階 10-2~5会議室	
部会員 (出席者)	委員	山口勝己、末吉泰子、相澤真理、関根美咲、岩切洋一、高橋博幸
	職員	(学校教育部) 北澤学校教育部長、小池指導室長、田中教育総務課長、是安教育総務課担当課長、浅沼施設課長、田村学務課長、有田保健給食課長、林教育センター所長、鈴木教育総務課総務係担当係長、菅野施設課主任 (財務部) 武井宮繕課長 (庶務：教育総務課総務係) 中野主任、小形主任、京増主任 (策定支援：株式会社豊建築事務所) 田中秀朗、奥澤信之
審議内容	①教育環境づくりの基本理念について(その1) ②個別施設機能の検討について(その2)	

■議事要旨(敬称略)

1 開会

山口部会長 (開会宣言)

2 第3回検討部会の振り返り

教育総務課 (資料1、2の説明)

発言の一部訂正をさせていただきたい箇所が施設課からある。施設課から発言をお願いしたい。

施設課

前回の説明の中で、多目的トイレについて、多目的トイレは1か所に全ての機能がなければいけないと発言したが、確認したところ、事業所単位、学校であれば学校全体という1つの事業単位の中で、全ての機能がばらばらでも、全体でそろっていれば、設置の方法としては問題ないということだった。訂正させていただきたい。

山口部会長

議事要旨の第2回、第3回の確認についてはよろしいか。

各委員

「異議なし」の発言あり。

3 教育環境づくりの基本理念について(その1)

教育総務課 (資料3から6の説明)

山口部会長

教育環境づくりの基本理念の前に、検討プロセスについてご説明があった。こちらのプロセス1から7までの順番に従って、本日は議論を進めていきたいと思うが、それについて何かご意見などあれば伺いたい。

各委員

「なし」の発言あり。

山口部会長

検討プロセスについては承認いただいたということにさせていただく。
教育環境づくりの基本理念の案を資料6で示いただいた。こちらについてご意見を伺いたい。

岩切委員

この基本理念は、私は非常にすばらしいと思っている。

私は、第1回目から言っているように、いずれ近い将来、近未来において、通信制の義務教育小学校はできるのではないかという前提で考えている。

町田市もタブレット端末を全児童に配付しようとしているけれども、高校では通信制の学校があるわけで、コロナ禍を経た近未来的には、私立を中心に児童・生徒をあえて登校させないという選択をする保護者が出てくるのではないかと思う。

ただし、それはあくまでも私立が担うべきものであって、地域に根差した公立が担当する必要はない。オンライン・通信制の学校を望む保護者は、恐らく子どもに合った学習を重視するのではないかと思う。確かに個別にやったほうが、その子に合った指導ができるとし、インタラクティブな環境整備ができれば、自宅からでも授業に参加することができる。

しかし、公立というか学校に通学して学ぶというのは、やはり社会性、学校に集うことによって友人相互、または教員との関係、そういう中で社会性を身に付けることがより重視されるのではないかと考えている。

さらに学習も、知識を得るのであれば個別にオンラインで学んだ方が力を伸ばせるかもしれないが、主体的・対話的で深い学び、そのうちの対話的な学び、お互いに切磋琢磨しながらいろんな話し合いをすることで、考える力や表現する力が延びていく。そういう学習形態が今後必要になってくるのかなと個人的には思っている。

そうしたときに、ここの基本理念に協働的学習というのを書いているのが私は非常に評価できるものかなと思っている。

そういうのをトータルすると、基本理念の中に「多様な学習形態」という言葉を入れているのは素晴らしいと思うけれども、同時に社会性を育む、といった言葉を加えてもいいのではないか。公立学校を良い意味で差別化する、集合型によって社会性を育む、友人相互の関係を育む、ということ意識した基本理念になると、もっとよくなるのかなと個人的には思っている。

山口部会長

それでは中学校からの意見として高橋委員はいかがか。

高橋委員

岩切先生の話は本当に参考になる内容で、やはり中学校でも社会性を身につけるというのは非常に大切。その中でもグループ学習とかでコミュニケーションを取りながら答えを見つけていくというのが非常に大切だと思っている。なので、こちらの町田市の基本理念を基につくっていくといいのかなと思っている。

知識については、リモートでも学習できると思う。ただ、対面という話についていえば、10月に教育実習生が4名本校に来たが、大学はリモート授業が続く中で子どもたちが教室に集まって授業を受ける良さを実感したと話していた。

一斉授業やグループ学習などの指導を、子どもの状況を直接行うことができよかつたとも話していて、そういったところが、やはり学校で学ぶ、普遍的なところで変わらないところかなと思っている。

山口部会長

ほかに何かご意見はいかがか。

相澤委員

今回、このコロナ禍の中、かなり休みの期間が長かった。実際に6月以降、一斉登校が始まり、教員から出た言葉が、コミュニケーション能力がすごく低下していると。それは、やっぱり集団で学習をしていないことのしわ寄せというか、影響だとい

うことを強く感じていて、始まってからしばらくの間は、すごくその部分を心配していたので、それも現場の大きな声だと思う。

先ほどから2人の校長先生がおっしゃっていたけれども、やっぱり集合型で社会性を学ぶというのはすごく大事なと実感している。

山口部会長

一斉学習、それからグループ学習が重要だというのは、今のご意見でも認識しているところである。ただ、特に校舎を造る上で個別学習という学習形態がどうなるかというのが少し予測できないところがあると思う。

タブレットなどの個人単位のICT機器を活用しながらの学習に対応した学習空間というのは、今のところは難しいと考えているので、空間をつくる上では一斉学習とグループ学習、これをきちんとできるような空間というものを考えていくことになろうと考えている。

個別学習に関しても、当然それに対応というのは考えていきたいと思うけれども、なかなかその点は難しい部分があるかと思う。

基本理念については、事務局案をもとに各委員の意見を反映することでいかがか。

各委員

「異議なし」の発言あり。

4 個別施設機能の検討について（その2）

教育総務課

（資料7の説明）

山口部会長

教室数の算定に関して、普通教室と、あと多目的室に関してご説明、ご提案いただいた。こちらに関してご意見を伺いたい。

岩切委員

小学校の立場で申し上げますと、非常に素晴らしい提案だと思っている。各学年に1つずつバッファがあるというのは、もちろん児童数推計に基づいているけれども、突然の変化というのは起こり得るものだというふうに思っている。

特に町田の場合には、大規模団地が今後どうなっていくのか。今の大規模団地の状況が、今後、築年数との関係で改修その他も起きてくると思うので、それに伴って児童・生徒数の変動も予想されると思う。その段階になっていろいろと考えるよりも、1教室ずつ、全部の教室が埋まるということは多分ないと思うので、これぐらいの余裕があれば、小学校とすると非常に助かる。

提案にもある、外国語活動の部屋、特にえいごのまちだでアピールしていく以上、そういう教室が1つあるだけでも随分大きいと思う。

実際に今日、本校職員と話している中で、忠生第三小学校に行って、外国語の部屋があることに對して、非常に驚きとともに、ああいう部屋が欲しいと言っていた。英語専科がいなくてもALTがそこに常駐して、担任が連れていくという形を取れば非常に効果的だし、例えば、この部屋に入ったら、もう日本語をしゃべっちゃ駄目みたいにならなければ、もっといいんじゃないかと。本当に施策的な面でもそういう部屋があるというのは非常にうれしいなと思っている。

あと、これは前任区の実験だが、児童数推計に基づいて学校統廃合を進めて大きな学校をつくったけれども、急にマンションができて、結局、教室が足りなくなって、完成して1年後に校庭にプレハブを造るという状況が生じた。それが後々の教育行政に非常に大きな影響を与えていたというのも目の当たりにしたので、小学校に

とって1学級ずつのプラスがあるというのは、いろんな意味で、学校経営上も助かるなというふうに思っている。

高橋委員

中学校も大変すばらしい案だなと思っている。今、本校では、数学と英語の習熟度で、2学年、3学年でやっている。もしこれが1学年から3学年まで、数学と英語の習熟度をやった場合に、やはり1校当たり3教室、習熟度別学習の部屋があると大変助かる。また、多目的室があると、それ以外でも使えるということは非常に助かるので良いなというふうに思っている。

山口部会長

ほかに、ご意見はいかがか。

関根委員

今先生方がおっしゃったことは、本当に行政のほうにもありがたく思っている。えいごのまちだと掲げている町田市として、オリジナル感を出した町田の英語を、町田らしいものをつくるということ。今、岩切先生がおっしゃったように、英語専用の部屋が小学校にも中学校にもあるという形になると、とても町田らしさが出るんじゃないかと思っている。

山口部会長

私のほうから確認させていただきたい。習熟度別の部屋に関しては、いわゆる学級増にも対応することを前提とするということではよろしいか。それを確認しておかないと、ほかの普通教室と、面積や形、条件が異なってつくられる場合があるので、基本的には習熟度の学習の部屋、それから、多目的室も学級増対応を考えて計画するということを明記しておいたほうがいいかと思う。

それからもう一つは、中学校の場合は体育館と武道場を使えば3か所で学年単位の活動を同時開催ということだけれども、今、体育館はつけているが武道場も冷房が入るということではよろしいか。

施設課長

山口委員がご発言いただいたとおりの前提で考えている。武道場を整備している中学校はすべて空調を入れている。今後についても同様の考えで設置する。

山口部会長

3か所と言っても武道場だけ暑い、という問題が無いよう、これからの新しい学校では冷房が整うということを確認した。こちらを含めて3学年全て同時に学年集会ができるという場所を確保することになるかと思う。

それでは、普通教室数、それから多目的スペースの数に関しては、承認いただいたということではよろしいか。

各委員

「異議なし」の発言あり。

山口部会長

続いて、プロセス4以降は豊建築事務所で資料8を作成している。通しでプロセス4から7までにに関して説明をしていただきたい。

豊建築事務所

(資料8の説明)

山口部会長

まず、プロセス4。オープンスペースの要否ということで、特に小学校に関して。オープンスペースと多目的ホールが部屋の数としても関係してくる。まず、2000年以降建築の既存の4校の小学校の結果をご紹介いただいた。ちょうど4校ともタイプが違って、3校はオープンスペースがある学校で、鶴川第一はオープンスペースがないけれども、その代わりに多目的スペースが、計画上3室。実際、1室はほかの用途で転用しているので2部屋が使われていて、1つは階段状の部屋になっているという特色がある学校。オープンスペースのある3校とも特色がある学校で、それらについてヒアリングの意見、管理職からの意見、学級担任からの意見を聞いた。

それぞれ、教室とオープンスペースの境界の形状が3校とも違うので、それに関してのメリット、デメリットが出ている。鶴川第一に関しては、オープンスペースはないので、多目的スペースに関しての意見が出されていた。

それぞれ担任の先生のアンケートを紹介いただいた。私どもの研究室で調査をさせていただいたけれども、やはりオープンスペースを持っている3校の先生は、オープンスペースをかなり評価している。それに対して、鶴川第一に関してはオープンスペースを評価しているのは3割程度。ということで、特にオープンスペースに関しては、体験してみないと、そのメリットがよく分からない部分があるということだと思う。

私どもの今までの調査でも、授業の場としてのメリット以外に、隣のクラスの様子が見えることによって、先生方も学年のまとまりが非常に高まったり、ほかのクラスでの授業の様子を参考にしたりと、そういうメリットもあった。児童にとっても学年全体のまとまりが高まる。要するに、クラスごとというよりは学年全体のまとまりが高まって、ほかのクラスとの交流が盛んになる。授業の場以外のメリットが結構ある空間だということ。それは実際に体験してみないとよく分からないという部分が結構あった。

したがって、3校に関しては、新しく校舎を建て替えたという場合でも、やはりオープンスペースをつくれたほうが良いと、その3校の先生は回答をしている。ただ、オープンスペース以外に多目的室を1室は欲しいという意見がほとんど大勢を占めているという状況だった。

鶴川第一の先生は、7割ぐらいは、オープンなくても多目的室を現状と同じ、もしくはもっと数を増やしてほしいという意見を持っている。それらを踏まえて考えていただければと思うけれども、いかがか。小学校のオープンスペースをつくるかつくらないか。

書き方は、必ずつくるという場合、つくらないという場合、中間的な書き方、中間的な場合でも、強い言い方として、原則としてつくるという言い方もあるし、つくるほうが望ましいという言い方もある。ご意見をお願いしたい。

岩切委員

教室の議論の前提となるのが教室そのものの広さかなというふうに私は認識している。教室の広さについての論議をした上で、オープンスペースの必要性を議論した方が良いのではないかと思う。

ただし、今回、例えば教室とオープンスペースの間仕切りをどうしたほうが良いかというときに、固定として捉えている人があまり少ない。あるのであれば引き戸とか、そういうふうになっている。会長がおっしゃったような学年としてのまとまりとか様々な要素は、もちろんあると思う。

ただ、やっぱり求めているのは教室の広さじゃないかと私は認識しているところ。例えば、教員のアンケートを見ても、資料4の2ページのところの普通教室の課題というところでも、広さについてはかなりの問題意識を皆さん持っている。72.9%。逆にオープンスペースに関して言うと、設置校5校のうち、課題があるとないが、ほぼ半分、あまりそこら辺に意識がいないんじゃないかと思っている。

つまり、オープンスペースがあることの教員が感じることのメリットは、多分8割

ける8という現在の教室の面積をもっと広く取りたいという思いなのかなと私は認識している。

だから、あるにこしたことはないけれども、ただ、いつもこの場で議論しているけれども、校地面積には限りがある中で何を優先するのかを考えたときに、まず教室の面積をどのようにするかを想定というか、ある程度、決めた上で、オープンスペースをどうするかという論議に入ったほうがいいのかと、お話を伺いながら思ったところ。

山口部会長

確かに、限られた面積をどのように配分するかということで、オープンスペースをつくるかつくらないかということに多分なるかと思うから、その辺、小学校に関しては、今、オープンスペースの要否ということになっているけれども、プロセス6の普通教育の広さ、それと併せてご意見をいただければと思う。

それらに関しても、教室は現状なのか広げるかというだけではなくて、広げる程度とかも出てくるので、オープンスペースをつくるかつくらないかと教室の広さの組合せもいろいろなパターンが考えられてくるかと思う。実際、この場でどのパターンがベストというのはなかなか難しいところがあるかと思うが、ご意見をいただければと思う。いかがか。あまり明確に確定していなくても、何となくという形でも。なかなかこの場でこれがいいと決断するのも確かに難しい部分はあるかと思うので。

相澤委員

広さに関してな、現状の教室の、町田第一小を皆さんご覧いただいたけれども、本当に子どもたちが椅子に座って学習するのが精いっぱいという状態で、広さの確保が必要だと思う。そして、もし可能であれば、グループに分かれて学習するというようなスペースがあると理想なのかなと感じる。

教育総務課

オープンスペースはあったほうが望ましいか望ましくないか、置くか置かないかという議論は、まず普通教室があってということだったと思うので、あったほうがいいのか、望ましいか望ましくないかというレベルでのご意見をいただくことを提案させていただきたい。

その後、広さの議論に移って、最後に確認するというのがよろしいかと。今、オープンがあったらあったでいいというお話があった。望ましいかどうかという認識が共通できるかどうか、まず確認をした上で、広さの議論に移るということをご提案させていただきたい。

山口部会長

事例の柏市のように完全にオープンをやめて教室を広くすると、教室をある程度広く取れるけれども、そういう方向に行くのか。それとも、オープンをつくっても、ある程度教室を広げることは可能だと思うので、やはりオープンスペースをつくったほうが望ましいのか、もうその辺は割り切って、教室を重点的にしたほうがいいのか、その辺はどちらがよろしいか。

関根委員

今現在、金井小に入っておりますが、やっぱり教室の前にオープンスペースがあったほうがいいのかと思う。私は、函師小学校のパターンがとても使いやすいと思う。

教室の前に少しのスペースでもあって、すぐに外に出て、学年がちょっと話し合ったり、ちょっと学年で合わせるがあったりするとき、運動会の練習とか校歌の練習とか、そういったときには本当にすごく便利。ちょっと離れたところに多目

的室という形であったとしても、やっぱり移動の時間がかかってしまったりするので、要るか要らないかといったら、あったほうがいいと思う。広くなくてもいいので、あったほうがいいと思う。

末吉委員 私も、アンケート結果が物語っていて、ある先生方はあっていいと言っているということは、要か否かといったら、あるのが望ましいかなと思う。

高橋委員 中学校の校長をしているんですけども、その前に小学校の校長も2年間しております、そのときに思ったのは、前任校は3クラスずつの6学年で18クラスあった。その学校にオープンスペースはなかったけれども、もしあったらどうなのかなと想像してみた。

いま、若い先生が増えてきていて、新規採用教員1人と若手1人、ベテランの先生が1人という学年構成が多い。そうした場合に、例えば今、関根委員が言ったように、オープンスペースの場合、その3人の先生で共通理解しながら授業を進めていくとか、もし困ったときは、そのオープンスペースで、学年で指導するといったことがあるといいのかなと思っている。小山ヶ丘小の佐野校長先生からも聞くと、オープンスペースがあると、そういった教員の指導力でも有効ということと、打合せをするときにも非常によかったという話は聞いているので、教員アンケートから見ても、それはいいのかなと思った。

施設課長 事務局から1つだけ豊建築事務所に質問をしたい。この検討資料の一番最初の写真のところで、川崎市のはるひ野小学校、中学校と横須賀が出ていて、オープンのところにも机があって、これは最初から常設をしているようなイメージですか。ただスペースがあるのが町田のイメージだけれども、こういうのがあると、すごく活用が違うのかなと思って、見させてもらったけれども、どうか。

豊建築事務所 これは両方のケースとも、机を当初、設計段階から想定していて、備品をちゃんと購入したケースなので、結構使い方がいろいろ展開できたかなと。自治体によっては、この備品を購入できなかったケースは、本当に広いスペースになってしまって、先生たちもどうやって使っているのか分からないというようなケースもあるので、家具とセットで空間を検討しなくてはいけないかなというふうには思っている。

岩切委員 私は、先ほどの事務局の提案どおりでいいんじゃないかと思っている。私もオープンスペースは要らないと言っているわけではない。ただ、最初にオープンスペースをどうするのかといったときに、原則として整備するとなると、そちらに引きずられて教室の面積が左右されるのではないかと、ということに懸念もっていた。小学校長会で話を聞く限りにおいては、多くの校長が教室の広さに問題意識があるので、その課題をクリアする必要があるのではないかと感じている。

山口部会長 それでは、教室の面積をある程度確保できるようなことを配慮するということを前提として、オープンスペースに関しては設置する方向で、この後、検討したいと思うけれども、よろしいか。

その辺の「望ましい」とするか、「原則」とするかというのは、また面積のところで併せて考えていきたいと思う。ただ、オープンスペースをつくるとなると、つくらないのに比べれば、多分教室の面積というのは影響が増してくると思う。オープンをつかって、教室を資料のご提案のように、11メートルまでして、なおかつオープ

ンも6メートルできるかということになると、確かにその辺は難しくなるので、組合せでバランスを考えていくことになるのではないかと思います。

それでは、基本的にオープンスペースを設置するという方向で検討を進めていきたいと思うが、よろしいか。

各委員

「異議なし」の発言あり。

山口部会長

それでは、プロセス4のもう一つ、設置する場合に教室とオープンスペースの間の仕切り方をどうするかという点について。

今オープンスペースがある3校は、小山ヶ丘小学校は1年生の部分は一部壁をつくっているけれども、他の学年は何も壁がない。

函師小学校に関しては、可動の間仕切りで、今年に関しては完全に開けた状態で使っているけれども、それまでは閉めた状態で使われていると。多分、壁の可動間仕切りのつくりを見ると、閉めた状態は、普通の固定壁と同じような状態だと思う。防音性能は非常にいいけれども、簡単には動かせないというものだったと思う。

小山中央小学校は、いわゆる引き戸タイプで、恐らく児童でも開け閉めして、特に安全的には問題ないものであると思う。

アンケート調査での評価としては、可動間仕切りか引き戸か、どちらかというのがほとんど大勢を占めている。これは今までの我々の調査でも、なかなか実際に現状の仕切りは分かるけれども、文章で書いたときに、ほかのタイプを完全に把握して回答しにくい部分があって、特に可動間仕切りといったときにいろいろなタイプ、動かし方とか重さもあるので、実際なかなかそこまで理解していただくのは難しいところはあったかと思う。

小山中央小学校は引き戸の学校で、回答でも引き戸が一番多い。小山ヶ丘小学校は完全オープンだけれども、回答では可動間仕切りのほうが多くなっている。

実際、このタイプと別にちょっと質問を用意すればよかったと思うけれども、今までの調査で、そういう形状ではなくて、どのような機能を希望されるかと聞くと、授業ごとに必要なときに閉めたいと。

去年、札幌の学校をかなり詳細に調査したけれども、時間ごとにテストのときに急に閉めるとか、隣のクラスで音楽が始まったら急に閉めるとか、閉めたいときに閉められるようにしてほしいという要求があった。可動間仕切りとか引き戸というのは、学校の先生にとっては、よく違いが分からない部分があったけれども、回答としては、従来の函師小のようなパターンだと、やっぱり1学期に1回とか、何か行事があるときにどうするというぐらいしか使えないので、実際、あまり評判がよくないことが今までの調査では多かった。

ただ、多分、函師小でこれを評価されているのは、音の問題、遮音性が一番いいので、その点、教室の音環境が確保されているという意味で、一番評価されている部分はあるかと思う。

ちなみに、全国的な傾向では圧倒的に引き戸タイプ。多分、豊建築事務所はフルオープンもつくられているし、いろいろなタイプをつくられていると思うけれども、全国的な傾向とか自治体からの要望だと引き戸が多くなっているのを把握されているのではないかと思います。何か補足説明はあるか。

- 豊建築事務所 うちが設計している学校に関しては、十数年前ぐらいまではフルオープンというのでも幾つかつくってきたけれども、やっぱり音の問題というのが相当いろいろ問題になって、それ以降は、やっぱり扉をつけるような形になっているオープンスペースの学校が多い。
- 今日の写真を持ってきていないけれども、これは8枚引き戸になっているけれども、両側が引き戸で、真ん中にでっかい扉をつくって、真ん中だけ開くというような扉もつくったことがある。その辺は何パターンかできるかなとは思う。
- 山口部会長 扉の枚数も、8枚が最近が一番多いけれども、4枚も、6枚もある。4枚の場合は扉を引き込むスペースをつくらないと、扉が残るので、全部開けても半分しか開かない。ただ、最近、福岡の学校を見学に行ったら、2校ほど4枚というのがあった。ちょっと見ると、あまり開かないので、これでいいのかなという感想を持った。
- あと、引き戸の場合は、途中で小さい窓とか、そういうのを付けると危険なので、大体開口部をつくらないところが多いので、全部閉めると通風が確保できない。小山中央の場合は、通風が確保できないタイプ。普通は上に欄間のような部分をつくって通風を確保するほうが空気衛生上は望ましいのではないかと思うが、いろいろ工夫はできるということで、この小山中央のタイプだけで引き戸のメリット、デメリットを判断はできないとは思う。
- 施設課長 学校建築の話から、最初に2004年に小山ヶ丘小をオープンにして、これはフルオープンでいきましょうということだった。それをもとに学校運営をしていく中で、いろんな話が出てきて、それを工夫したのが函師小であった。ただ、閉めたけれども、やっぱりもうちょっと動きがいいものということが小山中央に移ってきたという経過もあるので、やはり引き戸式の中で、よりいい形、今の現状のものをというのが一つの流れかなというふうには考えているところ。
- 末吉委員 豊建築さんにお尋ねしたい。この引き戸8枚、4枚、4枚ということは、下に4本、棧があるということか。
- 豊建築事務所 このパターンの場合は4本。
- 末吉委員 小学校なので、家と違うので子どもたちが砂のついた靴で上がってきて、砂がそこにたまって、それが壊れやすいとか、そういうものではないか。
- 豊建築事務所 こういうのを使い始めたころは、詰まりやすいようなレールもあったけれども、今は、その辺が改善されたようなレールを使っているので、特に問題はかなと。
- 末吉委員 4本、棧があったときに、その幅というのは、今、全部が一緒ではないと思うけれども、通常、学校で使っているような扉が4枚分とあっていいか。
- 施設課 現状として、今使っている状態では、ステンレスの下がレールになっていて、凹凸がかなり少ないもので、砂がたまって掃除がしやすいような状態。こちらのほうに壊れたという情報は今のところない。幅的には、1枚の扉の幅については、通常の扉と同じ程度のもことになるので、全体で4本あって、20センチぐらいの幅は取るようになっている。
- 山口部会長 いろいろメリット、デメリットあるけれども、比較すれば引き戸タイプが現状では一番望ましいのではないかと。欠点としては、要するに、フレキシビリティがちょっと下がるという、完全にそこのライン上しか扉は動かないので、天井吊りだと、

天井のレールをつけておけば、ある程度いろいろな場所にパネルを設置するという事は可能ではあるけれども、ただ、それでもかなり軽いパネルをつくられた学校とかもあるけれども、そういうのも含めて最近の傾向は引き戸になっていることを考えると、やはり一番ベストなのかなと思う。よろしいか。

各委員

「異議なし」の発言あり。

山口部会長

それでは、引き戸型を推奨するという形にさせていただきたいと思う。

次はプロセス5に移りたい。多目的ホールの必要数の検討で、小学校と中学校で変わってくるけれども、小学校の場合は、オープンスペースを整備する場合としない場合で、資料7の小学校の(2)の多目的ホールの案Aと案Bに書いている。事務局から資料の説明をお願いしたい。

教育総務課

(資料7の説明)

山口部会長

数の提案として、オープンスペースを整備する場合は、基本的には学年が集まれる面積を確保するという事を想定して、1校当たり1か所整備するということが案Aとなっている。整備しない場合の案Bに関しては2か所以上ということで、学級数が多い学校の場合には3か所ということも考えられるので「以上」と書かせていただいている。

鶴川第一でも3か所設置したけれども、1室はほかの用途で転用している状況でも、それほど足りなくて困るという状況にはなっていないようなので、2か所以上ということではよろしいかと思うが、いかがか。これも当然多いほうがいいけれども、いろいろ面積的な問題で教室を広げたりとか、そういうことも考えていくと2か所以上ということの案が出されているが、これについて、ご意見はいかがか。

各委員

「なし」の発言あり。

山口部会長

では、これを承認いただいたということで進めさせていただきたいと思う。

中学校に関しては、先ほどご説明いただいたとおりということで、体育館、武道場を含めて3学年が同時使用できるということで1か所設置するという事。

それでは、プロセス6、普通教室及び多目的スペースの広さについて、一番大きい問題かと思う。普通教室の広さについて、ご意見をいただきたい。まず、小学校から検討したいと思う。

2000年以降建築、改築の既存4校に関しては前の図面にある通り、基本的に8メートル掛ける8メートルで今までつくられてきた。全国的にも8メートル掛ける8メートルというのが小学校の場合は圧倒的に多い現状。

いろいろ調査したり、ご意見を伺うと、やはり狭いということで、これは当然広げたほうがいいのかと思うけれども、どの程度広げるか、収納スペースと併せて考えることになる。これも当然広ければ広いほどいいということになるけれども、その辺、現実的な部分も考えて、どの程度がいいかということでご意見をいただきたいと思う。

岩切委員

本当に今、山口先生がおっしゃったように、広ければ広いほどというのは、まず認識としてある。本校は今、コロナ対応ということで、6年生は1学級39人で非常に混雑した状態にあり、ちょうどまい具合に2教室をぶち抜いた部屋が2つ並んでいるところがあるので、6年生は、今そちらの教室で学習している。

そうすると非常にゆとりがある。後ろのほうに作業スペースもつくれるし、収納

もつくれるし、さらに言うと、グループ学習をするときに、後ろでやっておいでとか、いろんなふうにできる中で、どの学年もこうしてほしいというふうに、今私のところに無理なことを言ってきている。

さらに言うと、6年生の中でトラブルが減っている。ぶつかった、ぶつからないとか、消しゴムを落とされたとか。だから、私は、本音を言うと、オープンスペースがなくても教室を最大限広げてほしいという思いが実はある。ただ、オープンスペースを設置するとなったときには、広さのバランスを考える必要があると考えている。

最近の経験を踏まえると、これまでの普通教室の広さに加えて、せめて3メートルは広げていただければと思う。

オープンスペースがいいという回答は、学年集会での機能はもちろんあるけれども、日常的な活動に必要な教室としての面積確保として求められているのではないかと思う。だから間仕切りは固定じゃなく引き戸タイプ、広げておけば教室のゆとりにもなるというのがメインなのかなと私は思っている。

だから、小山中央小からのオープンスペースのメリットとして普通の授業の展開を変えやすい、という意見が出ているが、余裕スペースを大きくすれば対応できるし、函師小学校のテストの際に机を出して間隔を取って机を配置することができる。

だから、最低でも11メートルは欲しいと思うし、できれば13メートル、15メートル欲しいなと思うけれども、いろんな議論があると思うので、最低限オープンスペースの、例えば幅を町田市の整備実績として最小の5メートルとして見た場合を基準として考えるのがいいなと思っている。

教育総務課

1点確認をお願いしたい。今の広さというのは、収納スペース込みでそれぐらいということか、授業空間だけというところで、そこだけ整理をお願いしたい。

岩切委員

先ほど豊建築事務所さんが示された、あれが後ろのほうに固定で入っているのがありましたよね、高さを大分変えて。そういうのも工夫しなきゃいけないと思うけれども、収納スペースを含めて11メートル以上がいいと思う。

山口部会長

ほかはご意見、いかがか。

末吉委員

今の岩切先生の話聞いて、あと3年前に知っておきたかったなと。今うちは、上の子が小学校6年生で、体がとても大きい。教室も今はぎゅうぎゅう詰めで使っているような状況で、当然個人差はあるけれども、やっぱり小学生でも6年生になると170ぐらいの身長のある子どもがいる時代になったと思う。

もし、岩切先生の話3年前に知っていたら、これだけ広い教室があって、そういう学校だったら子どもたちが落ち着いたかどうかと思いつつ話を聞いていた。実際、岩切先生のお話を聞いていて、すんと私は臍に落ちまして、教室が広くないからオープンスペースを必要としている。確かにどうしてもオープンスペースをつくらないといけないとは、今皆さんおっしゃっていないけれども、教室を広げたらクリアになる問題は、かなり出てくるのかなと、岩切先生のお話を聞いていて、私は実際、子どもを育てている立場として、そんなふう感じた。

山口部会長

他はいかがか。非常に重要な話だと思う。

相澤委員

意外に教室での転倒事故というのが多くて、別に走っているわけでも何でもなくて、普通に歩いているだけなのに机に引っ掛けたとか、椅子に引っ掛けたとか

ということがすごく多い。それはやっぱり教室の狭さのなせるわざというところも感じるので、スペースがあれば、もちろん広ければ広いにこしたことはないけれども、私の理想としては、8掛ける、例えば、もう片方の辺は1.5倍ぐらいあればいいなと思う。そうすると12メートルなので、かなり確保が難しくなってくると思うけれども、先ほど岩切先生がおっしゃっていた、プラス3メートルというのは本当に理想的な寸法なのかなと感じている。

教育総務課 理想として、取れたらこれぐらいとご議論いただいたので、どうしても取れない場面も想定されるので、そこもご意見をいただけたら。収納スペースだけは別に出したいとか、もしご意見があれば深めていただきたいと思う。

末吉委員 具体的な数字を最低限のラインを引くというのは、岩切先生、可能ですか。実際、学校でやっている、携わって、毎日学校にいて、毎日その教室を見ている、相澤委員ももちろんそうで、実際どうですか。

岩切委員 引けない。ただ、この前、ここでの議論で、この資料を先に拝見して、8掛ける11はどんなものかなと思って、自分で教室の中に入って、ここから3メートルあるのかとやったら、十分とは言えませんが、それでも変わるのかなとは思った。

ただ、本当に、自分の中で、今2教室ぶち抜きを見ているだけに、どうしてもそこに行ってしまうんですけども、ただ、事務局からもありましたけれども、理想を追い求めたってしょうがないというところへいったときには、最低でも3メートルは欲しいなと。これは個人的な思いです。

ほかの校長や教員がどう思うかは別だけれども、ちょっと一緒に何人かの担任に見てもらった。ここでの議論は一切言わずに。あとどれぐらい広かったら大丈夫かねなんて話をしたときに、最低3メートルぐらいと言っているのが多かった。

末吉委員 三小の教室は、8掛け8ですか。

施設課 ちょっと今手元に資料はないんですけども、古い学校だと、7.5メートル掛ける8メートルというタイプが多い。

山口部会長 落としどころが非常に難しいところではあるけれども、基本的にオープンスペースをつくる場合とつukらない場合、望ましいという形であれば両方許容する、つukらない場合には、確かにそういう広い教室を確保することは可能だと思うので、その場合には、ある程度広い教室を確保するという書き方はできると思う。

教育総務課 普通教室の回の主要な部分、広さと収納一体で、収納部分まで議論は行っているので、ここの段階で一旦整理させていただいて、またご提案させていただければと。回としては1個、予備回を使うことに早くもなるけれども、すごく大事なところなので、無理にまとめずに、1度整理をさせていただきたいと考えている。会長がよろしければ、そういう整理をしたいと思う。

山口部会長 今すぐ結論を出すより、もうちょっと慎重に考えていければと思うので、小学校のオープンと小学校の教室の広さに関しては、もう一度整理をして提示をするということにさせていただく。

中学校に関しては、この場で教室の議論をしていきたいと思うので、中学校のほうに関してはオープンがないので純粋に教室の広さということになる。

高橋委員 純粋に広いほうがいい。広いほうが、やはり子どもの気持ちも広くなるというか、

グループをつくる時も広いほうがいいし、なおかつ収納場所があればいいかなと。

山口部会長

具体的な形が資料に映っているけれども、現状だと、8メートル掛ける9メートルで、どちらを広げるかというのがあるかと思うけれども、実際、意見を聞けば、右のタイプ、前面黑板から向かい合わせの壁までを伸ばしてほしいという意見が非常に多いと思う。ただ、なかなか実際に建設するとき、校舎全体の長さが長くなってしまうと、敷地にうまく入らないということが非常に多くて、左のようにせざるを得ないと。

8掛ける9メートルとかをつくっている学校も、ほかの自治体も多いけれども、あまりよくないことは分かっているけども、左側のようなタイプをつくらざるを得ないということもあるので、面積はある程度、目安を決めてとは思いますが、どちらを長くするかというところまでは、方針としては確定しておかないほうがいいのかと思う。

ただ、実際、目安としては、中学校でも収納を含めて、純粋に学習空間として8メートル掛ける9メートルは机を置く部分だけで確保しても、それでもちょっとこの絵だと足りないぐらいなので、左側は12.5メートルという、収納スペースを含めてかなり広く取ってあるけれども、ご意見があれば。

関根委員

1番と2番について、ちょっと事前に先生方にお伺いしてみた。そうしたら、このような机の配列（横長の配列）では、左は、特に端っこ2列の子どもは前の黑板が見えにくいということがあった。右のパターン（縦長の配列）でも、両端1列はやっぱり見にくいと子どもたちは言っている。なので、どちらかという、左よりは右。左だと本当に困る。日常の勉強がしにくいということがある。

あと、ロッカーの問題もあるけれども、子どもたちは大体十二、三キロの荷物を持って、ノース・フェイスとか、大きいリュックを机の横に置いている。中には資料集や教科書、お弁当、水筒、体育館履き、毎日持ってくるもの、あとは個人の部活の用具が入っている。

本当に教室は歩けない。先生方が回って、机間巡視するスペースも本当になくて困っているという状況なので、できれば外に出したいけれども、渋谷区の例を見ると、外に出してロッカーをつくったところもあったり。でも、それはとてもハイリスクだと伺った。やっぱりまだ中学生なので、隣の子どものロッカーをいたずらしてみたり、物がなくなったりしていると。もし外に出す場合は、ぜひ鍵つきということをお願いしたいと思っている。

中学校の場合は、冬になるとみんなコートを着てくる。制服の上のコートがすごくかさばる。それを後ろに置いたり、横にまるめて置いたりして、さらに歩きにくくなっているのが現状。なので、コートかけや、その収容も考えていただければと思う。

高橋委員

関根委員とほぼ同じで、右側の（縦長の配列）ほうがいい。両端がちょっと見えにくいということが言われている。また、ロッカーも廊下ではなくて、教室の中の、できれば右側の後ろのほうに埋め込んでほしいなという希望。廊下に出ると、子どもたちは授業が中断されたり、また、ほかの教室にちょっとのそきに行ったりとかする子もいるだろうなと。落ち着いている学校だといえども、やはり教室内で全て

授業が完結できるようにしていただけるといいなど。

できればロッカーを大きめにして、後ろの部分、要するに、図の一番右の端に埋め込むような形で大きいロッカーがあると大変助かる。上着なども入れられるので、そういったことをちょっと考えていただければ大変ありがたい。

末吉委員

先日、ICT教育に関わる情報をいただいて、私も帰って、いろいろ見たけれども、やっぱり民間はかなりいろんなものを出していて、今からのご時世、電子黒板になるであろうと考えたときに、いろんなものがあるとは思いますが、今、普通のテレビでも、どの角度から見てもきちんと見えますというのが普通なので、これが電子黒板になったときに、1つ、嫌な形のほう、横長い形の問題はクリアになったりしないものか。

教育センター所長 今のICTの話で、今、GIGAスクール構想ということで、全国的にタブレット整備が進んでいるけれども、まだ教室のデザインという部分までは具体的に踏み込んではいないという状況が正直なところ。

ただ、民間企業であったり、IT企業なんかで、こういう研修スペースがどういうものになっているか、大人の教室というところで。そういったところの環境がどうなっているかという、ホワイトボードが多いけれども、ホワイトボードがあって、横のほうで見えにくいところには別途モニターがあって、そのホワイトボードの映像を投写するとか、そういった、場所によって見えないところはIT機器を使ってカバーしているケースが多いと見受けられる。

末吉委員

どの程度のものを皆さんが想像しているかというのは、多分、個人でそれぞれ状態が違うと思うけれども、私が想像している電子黒板というのは、タブレットで書いて、当然、先生が電子黒板に書いたものが子どもたちのタブレットに反映されて、子どもたちが書いたものがタブレットに反映されて、4画面とか6画面とかが一斉に投写されてというのが当たり前の時代がもうすぐそこに来ていると思うので、この話を進めていく中で、それを入れられないというのは、私はあり得ないと思っている。

そういうことができるようになったら、ある程度、どのぐらいのものを想像しているのかというのは、皆さん違うと思うけれども、それが当たり前でないといけないうのかなという気はしている。

山口部会長

いろいろなICT機器、特に中学校の場合は含めて考えていかななくてはいけないと思うけれども、大きさとして、右側（横長の配列）のほうがいいというのは分かるが、面積の目安として、例えば、今9メートルになっているけれども、8メートル掛ける11メートルという、中学校で今7列机が並んでいるけれども、実際、7列は使いにくいという話も聞いたりするので、理想としてはどうか。

高橋委員

7列にしたことは、ちょっと今まで経験がない。よく6列にして、男子と女子で並んでいるという形でやっているケースが多い。

山口部会長

これから特にグループ学習が盛んになるというときに、奇数というのはグループ展開が非常にしにくいので、現状調べると6か8かがやっぱり多くて、7にしているところはほとんどグループ学習をしないという話も聞くので、そうすると、理想としては8掛ける11ぐらいなのかなという、実際設計としては非常に作りにくいけれども。

施設課 事務局からの提案で、ここの場で、例えば、寸法を明確に記入してしまうと、それこそ敷地の形状ですとか、これでは学年がばらばらになってしまうとかいうパターンが考えられますので、目安としての面積を指定していただいて、理想としては縦長になる方向だよという形での書き方、決め方が一番ありがたいかなと思っている。

山口部会長 私も多分そういうことだと思うので、ただ、理想としては、多分8掛ける11ぐらい、12まであればそれはいいと思うけれども、そうすると、90平米ぐらいという、90平米をどう取るか、本当は100平米ぐらいあったら理想かもしれないが、ここでなかなか100というのは、ちょっとすぐ、例えば、来年計画するという学校を考えたりしたら、少し現実から乖離しているかなという感じがするので、90でも本当にそこまで可能なのかと心配するぐらいの値ではあるけれども、目安としては、そのぐらいののかなという感じはしている。

教育総務課 皆様のご意見をいただいたので、言葉として例を出させてもらって、確認いただくのはいかがか。具体的に文字にしてみても、イメージがどうなるかを確認いただいて、次回、より深めていくという進め方がよろしいかと思うので、会長がよろしければ、本日はそういうまとめ方でいかがか。

山口部会長 では、中学校に関しても、次回、ある程度まとめた形を出していただくと。
ただ、もし90ぐらいと書ければ、それはそれである程度画期的な面積だとは思う。2割増しというのは、今、ほかの自治体でも多分80ぐらいがせいぜいなので、もし90というのが可能であれば、かなりPRになる面積かなとは思う。

プロセス6として、教員のスペース、オープンスペースの幅に関しては、一緒に次回整理していこうと思う。

少し慎重にこの点に関しては進めていきたいと思うので、今までの部分を整理していただいて、また次回、引き続き検討して、ある程度、次回に確定していきたいと考えている。

それでは、本日の議論は以上とさせていただきます。

5 第5回検討部会開催概要

教育総務課 (第5回開催概要説明)